

香川県の水稲の品種改良

～ 温暖化への対応 と 品種「おいでまい」の改良に向けて ～

作物・特作部門

三木哲弘

温暖化に対応した品種を育成する取り組み

高温環境で品質が低下しにくい品種を選抜するため、育成中の品種を早期栽培し、気温の高い7月下旬～8月に登熟させる「**高温登熟性検定試験**」（図1）を行っています。

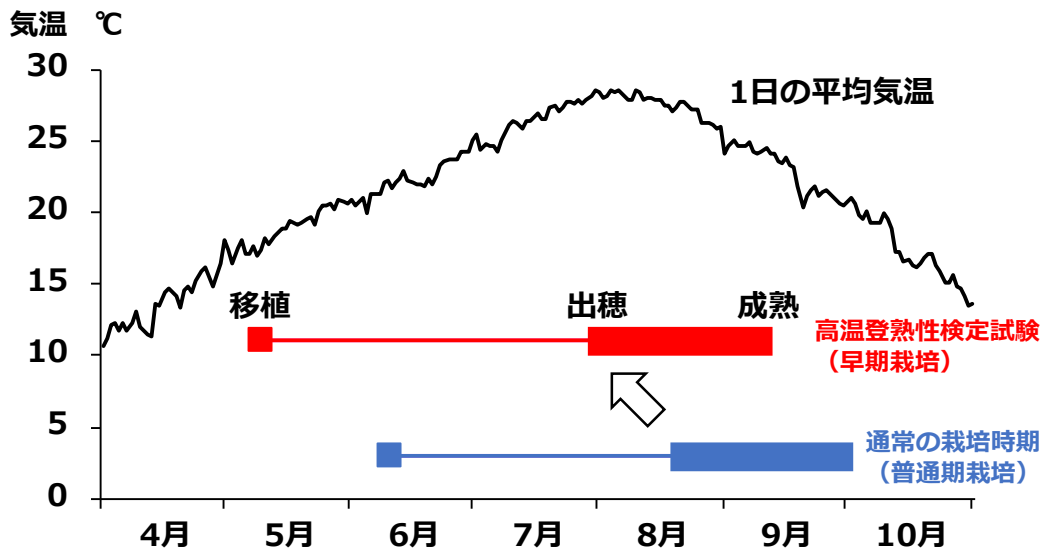


図1 水稲の生育期間中における平均気温の推移 と 栽培時期

「おいでまい」に いもち病抵抗性を付与する取り組み

いもち病は水稲の重要病害です。「おいでまい」は「ヒノヒカリ」よりもいもち病の発生が多くみられることから、「戻し交雑法」によっていもち病に抵抗性のある「おいでまい」の品種開発に取り組んでいます。

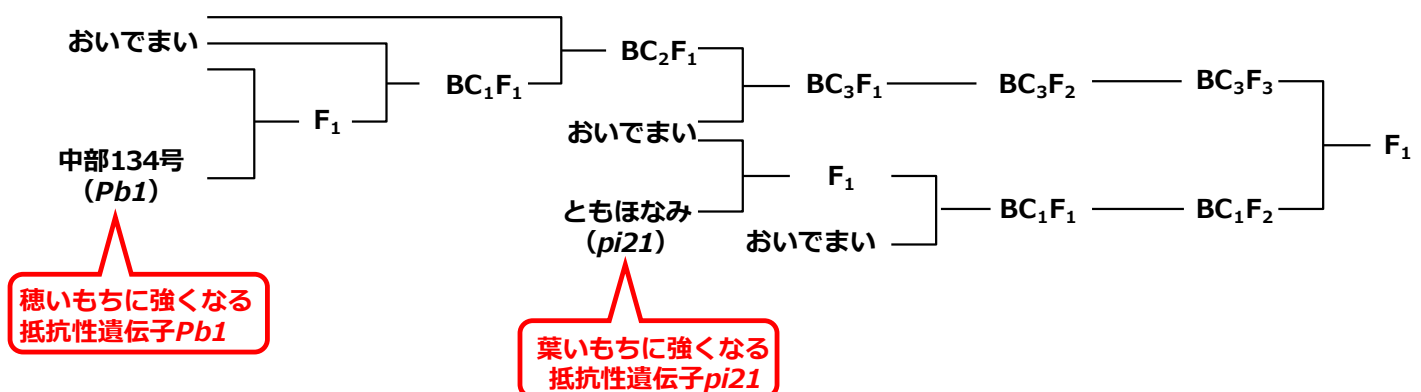


図2 「おいでまい」にふたつの抵抗性遺伝子を導入するための系譜図

注) F₁やBC₁F₁などの表記は、交配等によって得られた新しい世代であることを意味しています。

穂いもちに強くなる遺伝子を品種「中部134号」から、葉いもちに強くなる遺伝子を品種「ともほなみ」から受け継ぐように人工交配を繰り返す（図2）、抵抗性遺伝子を受け継いでいるか否かは、DNAマーカーを用いて判別してきました。

今後、従前の「おいでまい」との比較試験を実施していきます。